



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月7日

上場会社名 船井電機株式会社
 コード番号 6839 URL <http://www2.funai.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員社長 (氏名) 船越 秀明

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 管理本部長 (氏名) 上島 誠

TEL 072-870-4395

四半期報告書提出予定日 平成29年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	32,071	27.8	2,328		2,159		1,517	
29年3月期第1四半期	25,090	33.7	2,873		5,859		5,712	

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,732百万円 (%) 29年3月期第1四半期 8,027百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	44.49	
29年3月期第1四半期	167.42	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	123,195	74,584	60.4
29年3月期	108,685	76,656	70.4

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 74,433百万円 29年3月期 76,507百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		10.00	10.00
30年3月期					
30年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

30年3月期の配当予想額については、為替相場の変動が連結純資産の変動に与える影響が大きいことから、現時点では未定であります。なお、当社の配当方針(連結純資産配当率1%)に変更はございません。配当予想額の開示が可能になった時点で速やかに公表いたします。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	81,400	23.1	600		700		400		11.72
通期	160,000	19.5	600		700		200		5.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期1Q	36,130,796 株	29年3月期	36,130,796 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

30年3月期1Q	2,011,765 株	29年3月期	2,011,765 株
----------	-------------	--------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期1Q	34,119,031 株	29年3月期1Q	34,119,109 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 当社は、決算説明資料を決算発表日同日速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

添付資料

〔目次〕	1
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(セグメント情報)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社の主要市場である米国は個人消費をはじめ、民間需要の景気下支えにより、緩やかな回復を維持しております。欧州では消費者と企業の景況感は良好であり、消費、投資、輸出がそろって拡大するバランスの良い経済成長が続いております。中国については引き続き景気減速傾向が継続しております。

わが国におきましては、IT産業を中心とする輸出の回復や公共投資の増加、個人消費の底堅い推移などにより、緩やかな回復の動きを維持しております。

このような状況下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は32,071百万円(前年同四半期比27.8%増)となりました。売上は増加いたしました。液晶パネルやメモリなどの部材価格が高止まりしていること、メキシコでの価格競争の激化などから、営業損失は2,328百万円(前年同四半期は2,873百万円の営業損失)を計上することになりました。経常損失は2,159百万円(前年同四半期は5,859百万円の経常損失)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は1,517百万円(前年同四半期は5,712百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

所在地別セグメントの状況は次のとおりであります。

① 日本

前連結会計年度において連結子会社であったDXアンテナ株式会社の当社保有全株式をエレコム株式会社に譲渡し、連結の範囲から除外したため、同社が販売していた受信関連用電子機器の売上がなくなり減収となりましたが、液晶テレビやBDレコーダーは販売が好調に推移したことにより増収となりました。この結果、売上高は10,413百万円(前年同四半期比49.9%増)、セグメント損失(営業損失)は137百万円(前年同四半期は1,234百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

② 米州

DVDプレーヤーやインクジェットプリンターは減収となりましたが、液晶テレビやBDプレーヤーは販売が好調に推移したことにより増収となりました。この結果、売上高は21,570百万円(前年同四半期比20.7%増)となり、セグメント損失(営業損失)は836百万円(前年同四半期は1,112百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

③ アジア

液晶テレビが減収となり、売上高は71百万円(前年同四半期比29.3%減)、セグメント損失(営業損失)は1,366百万円(前年同四半期は630百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

④ 欧州

インクジェットプリンターやインクカートリッジが減収となりました。この結果、売上高は16百万円(前年同四半期比90.8%減)、セグメント損失(営業損失)は21百万円(前年同四半期は28百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

機器別の売上高は次のとおりであります。

① 映像機器

映像機器では、DVDプレーヤーやDVDレコーダーが減収となりましたが、液晶テレビやBDレコーダーの販売が好調に推移したことにより増収となりました。この結果、当該機器の売上高は30,548百万円(前年同四半期比47.4%増)となりました。

② 情報機器

情報機器では、インクジェットプリンターが減収となりました。この結果、売上高は740百万円(前年同四半期比22.6%減)となりました。

③ その他

上記機器以外では、前連結会計年度において連結子会社であったDXアンテナ株式会社の当社保有全株式をエレコム株式会社に譲渡し、連結の範囲から除外したため、同社が販売していた受信関連用電子機器の売上がなくなったこと等により、売上高は783百万円(前年同四半期比77.0%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は下記のとおりであります。

資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べて14,509百万円増加いたしました。その主なものは、現金及び預金が4,822百万円減少し、商品及び製品が6,047百万円、原材料及び貯蔵品が12,082百万円増加したことなどによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べて16,581百万円増加いたしました。その主なものは、支払手形及び買掛金が15,964百万円増加したことなどによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べて2,072百万円減少いたしました。その主なものは、利益剰余金が1,859百万円、為替換算調整勘定が254百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年5月15日の「平成29年3月期決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

(注) 業績予想は、現時点で入手した情報に基づき判断したものでリスクや不確実性を含んでおります。主要市場である米国をはじめ、海外の経済情勢の変化や製品価格及び為替の急激な変動などにより実際の業績は見通しと異なることがあります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	40,136	35,313
受取手形及び売掛金	15,571	14,870
商品及び製品	15,459	21,507
仕掛品	1,149	1,045
原材料及び貯蔵品	9,644	21,726
その他	4,390	6,578
貸倒引当金	△847	△858
流動資産合計	85,503	100,184
固定資産		
有形固定資産	12,963	12,774
無形固定資産	3,342	3,334
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	1,543	1,539
その他	5,583	5,599
貸倒引当金	△252	△238
投資その他の資産合計	6,875	6,901
固定資産合計	23,181	23,010
資産合計	108,685	123,195
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,603	34,567
未払法人税等	813	313
引当金	491	710
その他	9,667	10,555
流動負債合計	29,575	46,147
固定負債		
引当金	1,047	1,019
退職給付に係る負債	15	6
その他	1,391	1,437
固定負債合計	2,453	2,462
負債合計	32,028	48,610

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,307	31,307
資本剰余金	33,603	33,603
利益剰余金	47,020	45,161
自己株式	△24,341	△24,341
株主資本合計	87,590	85,731
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	24
為替換算調整勘定	△11,206	△11,460
退職給付に係る調整累計額	111	138
その他の包括利益累計額合計	△11,082	△11,297
新株予約権	149	150
純資産合計	76,656	74,584
負債純資産合計	108,685	123,195

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	25,090	32,071
売上原価	21,688	29,132
売上総利益	3,401	2,939
販売費及び一般管理費	6,274	5,267
営業損失(△)	△2,873	△2,328
営業外収益		
受取利息	56	53
受取配当金	3	2
為替差益	—	314
その他	43	36
営業外収益合計	103	406
営業外費用		
支払利息	53	3
持分法による投資損失	1	—
為替差損	2,938	—
支払補償費	—	225
その他	96	8
営業外費用合計	3,090	237
経常損失(△)	△5,859	△2,159
特別利益		
固定資産売却益	189	2
投資有価証券売却益	31	9
その他	13	1
特別利益合計	234	12
特別損失		
固定資産処分損	—	4
減損損失	—	※1 15
特別損失合計	—	19
税金等調整前四半期純損失(△)	△5,624	△2,166
法人税等	85	△648
四半期純損失(△)	△5,710	△1,517
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△5,712	△1,517

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失(△)	△5,710	△1,517
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△23	12
為替換算調整勘定	△2,226	△254
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	—
退職給付に係る調整額	△55	26
その他の包括利益合計	△2,316	△214
四半期包括利益	△8,027	△1,732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△8,020	△1,732
非支配株主に係る四半期包括利益	△6	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(タックスヘイブン対策税制について)

当社は、平成23年6月29日、大阪国税局より、当社の香港子会社がタックスヘイブン対策税制の適用除外要件を満たしていないとの判断により、平成20年3月期から平成22年3月期の3年間について当社の香港子会社の所得を当社の所得の額とみなして合算課税するとの更正通知を受領いたしました。当社は、この更正処分を不服として、平成23年8月25日、大阪国税不服審判所に対して審査請求を行い、平成24年7月18日、当社の請求を棄却する旨の裁決書を受領いたしました。当社といたしましては、この裁決は誠に遺憾であり到底承服できるものではないため、平成25年1月17日、東京地方裁判所に対して更正処分の取消請求訴訟を提起しておりますが、平成28年9月28日に当社の請求を棄却する旨の判決がなされました。当社は、この判決内容に承服できないことから、平成28年10月12日、東京高等裁判所に控訴いたしました。

追徴税額は、法人税、住民税及び事業税を含め825百万円（附帯税を含め935百万円）であります。これについては、「諸税金に関する会計処理及び表示に係る監査上の取扱い」（日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第63号）に従い、平成24年3月期において「過年度法人税等」として費用処理いたしました。

また、税務調査が終了した年度の翌連結会計年度である平成23年3月期から当該税制を適用した場合の影響額を費用処理しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※1. 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

当社グループは、原則として、事業用資産については継続的に収支の把握を行っている法人単位を基礎とした区分によりグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当第1四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年6月30日）

用途	場所	種類
事業用資産	P&F MEXICANA, S.A. DE C.V. (メキシコ メヒコ)	ソフトウェア

当第1四半期連結累計期間において、収益性が著しく低下している事業用資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額（15百万円）を特別損失に計上いたしました。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額によって測定しており、正味売却価額を零として算定しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	日本	米州	アジア	欧州	計		
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	6,947	17,864	101	176	25,090	—	25,090
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,784	304	14,548	—	28,637	(28,637)	—
計	20,732	18,168	14,649	176	53,727	(28,637)	25,090
セグメント損失(△)	△1,234	△1,112	△630	△28	△3,005	132	△2,873

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額132百万円には、セグメント間取引消去24百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△219百万円及び棚卸資産の調整額327百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	日本	米州	アジア	欧州	計		
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	10,413	21,570	71	16	32,071	—	32,071
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	23,312	368	28,597	—	52,278	(52,278)	—
計	33,725	21,939	28,669	16	84,350	(52,278)	32,071
セグメント損失(△)	△137	△836	△1,366	△21	△2,362	33	△2,328

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額33百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△212百万円及び棚卸資産の調整額243百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、当第1四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことから、現時点においては継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

現状の当社グループの現金及び預金の残高にて、当面の間の運転資金が十分に賄える状況であることから、重要な資金繰りの懸念はありません。

また、当社グループは前連結会計年度に中期経営方針を策定し、その基本方針に基づいて既に以下の対応策を段階的に実行していることから、当該事象の解消が実現できるものと考えております。

① ディスプレイ事業（液晶テレビ事業）

北米市場での販売拡大：大型4Kの複数モデル導入により既存顧客先での販売増と新規顧客開拓。

日本市場参入：株式会社ヤマダ電機での独占販売により日本市場でのシェア拡大。

② デジタルメディア事業（DVD・BD事業）

北米市場での4KBDプレーヤーの販売拡大。

日本市場参入：株式会社ヤマダ電機での独占販売により日本市場でのシェア拡大。

③ オフィスソリューション事業（情報機器関連事業）

高付加価値プリンター製品の販売拡大による収益率の向上。

投資範囲の厳正化を図りつつ、マイクロフルイディクス（微量流体制御技術）の技術開発の継続、及び実用化に向けた資源の集中。

④ 新規事業

ヘルスケア、医療、車載に関する新製品の開発と市場投入による売上拡大。

従いまして、当第1四半期連結会計期間の末日現在において、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断し、四半期連結財務諸表の「継続企業の前提に関する注記」には記載していません。